

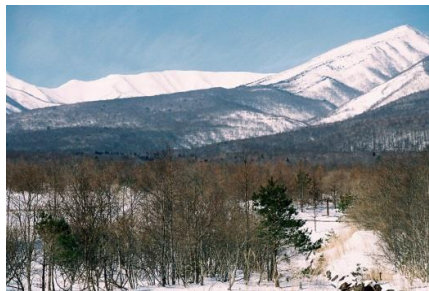
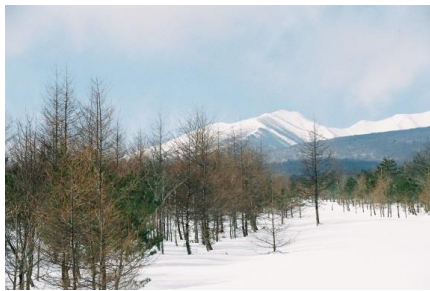
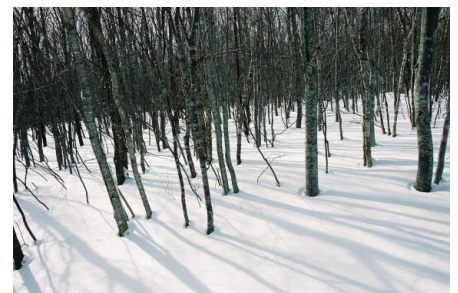
定年後の2007年2月の思い出

冬の南蔵王高原のトレッキング

冬季の登山は雪景色の山々の美しさに憧れますが登山道は無く、雪崩の危険性のない道なき道を登山するのですが周囲の木々の成長の方向、山の傾斜等に注意して歩行する難しさがあります。

特に大切な事は冬山は気象の変化が多い為登山時の気象の変化を判断することが重要です。それらを理解している経験者の同行することが非常に大切な事です。それでも冬山は非常に綺麗な景観を見せてくれているので、冬山登山は魅力ある運動であると思います。今回は登山ではなく冬山のトレッキングで南蔵王高原の素晴らしさを見せてくれました。山の中腹までスキーやスノーシュー、かんじきが有ればだれでも散策されるようにコースが整備されていますので安心して行ける所です。

しかし夏山と違い体力は雪の上を歩行するので1.5倍くらいの体力が必要です。



南蔵王 宮城県と山形県の県境にある蔵王連峰の南半部。

七ヶ宿町、白石市、蔵王町にまたがる。屏風岳(1825m)を中心とし、杉ヶ峰(1745m)、後烏帽子岳(1681m)、不忘山(1705m)などの円錐火山が連なる。屏風岳の東側は比高500mの南北方向の大断崖で、爆裂火口壁とも断層崖ともいわれるが噴火の記録がない。東から南側にかけては七日原などの裾野がよく発達。その西縁にほぼ南北方向の断層地形が見られる。不忘山の南斜面には川原子ダムがある。白石川支流の横川溪谷に面する南西斜面はブナ平などの原生林が繁茂。七日原、三住(みすみ)、川原子(かわらご)、長老などの開拓集落が裾野にあり、酪農が行なわれる。長老開拓地に近い長老湖は地すべりを成因とする湖。遠刈田温泉が登山拠点である。スキー場が多く、冬季はスキー客でにぎわう。蔵王国定公園、蔵王高原県立自然公園に属する。

出典 ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典

